

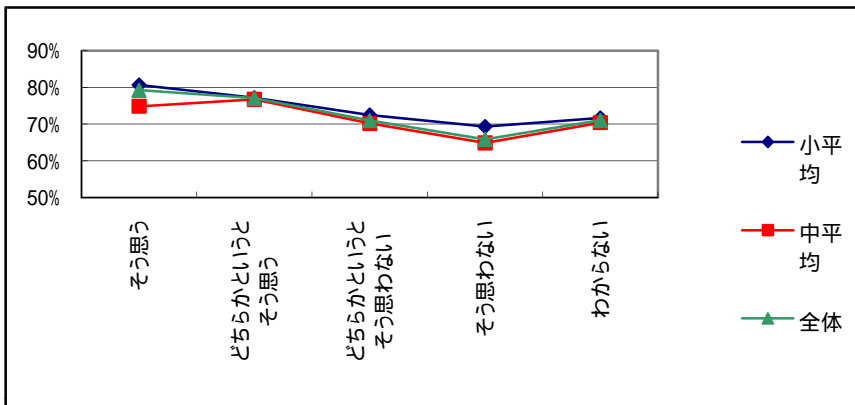
#### (4) 意識調査とペーパーテストの結果との相関分析

### 学ぶことの意義や目的意識を基盤にした「学ぶ意欲」の状況と学力との関係

#### 1 勉強は好きですか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
そう思う	80.7%	74.9%	79.2%
どちらかというと思う	77.2%	76.8%	77.1%
どちらかというと思わない	72.5%	70.2%	71.0%
そう思わない	69.4%	64.9%	65.8%
わからない	71.8%	70.4%	71.0%

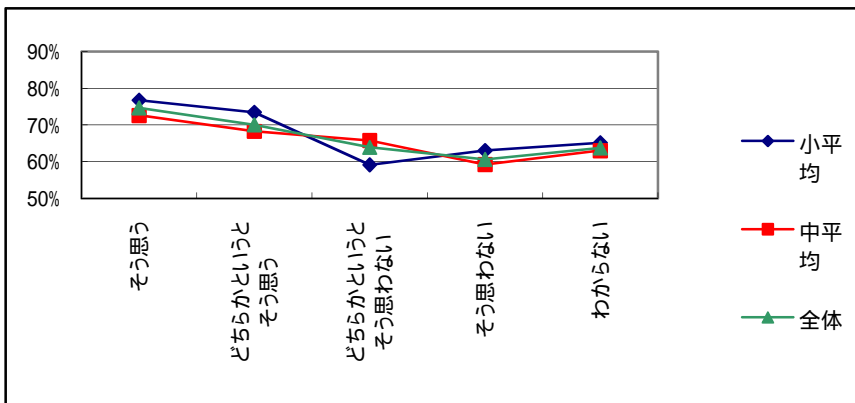


「勉強が好き」と思う児童生徒には、正答率が高い傾向が見られる。「勉強が好き」において「そう思う」を選んだ児童生徒の正答率は80%程度であり、「そう思わない」を選んだ児童生徒の正答率と差が見られる。小学校、中学校ともに、「そう思う」「どちらかというと思う」を選んだ児童生徒と、「どちらかというと思わない」「そう思わない」を選んだ児童生徒の正答率の差が8%程度ある。「勉強が好き」と学力には、相関が見られる。

#### 2 勉強は大切だと思いますか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
そう思う	76.8%	72.6%	74.7%
どちらかというと思う	73.5%	68.3%	70.0%
どちらかというと思わない	59.2%	65.8%	63.9%
そう思わない	63.0%	59.2%	60.6%
わからない	65.2%	63.0%	63.8%

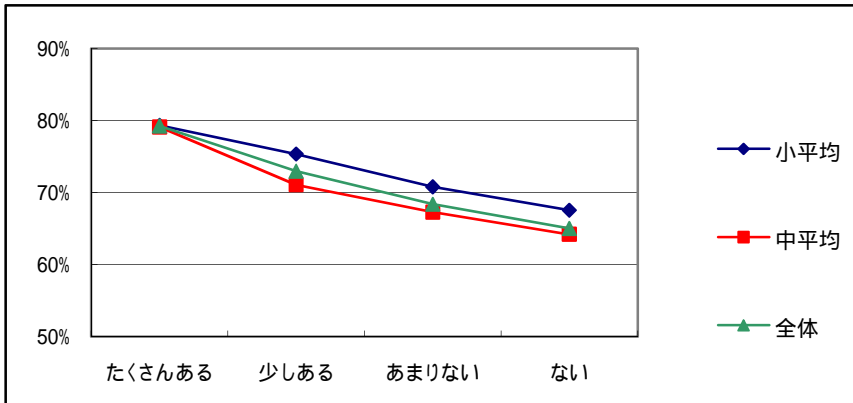


「勉強は大切」と思う児童生徒には、正答率が高い傾向が見られる。「勉強は大切」において「そう思う」を選んだ児童生徒の正答率は75%程度であり、「そう思わない」を選んだ児童生徒の正答率と大きな差が見られる。中学校では、「そう思う」「どちらかというと思う」を選んだ生徒と、「どちらかというと思わない」「そう思わない」を選んだ生徒の正答率の差が8%程度あるが、小学校では、その差が14%程度と大きい。「勉強は大切」と学力には、相関が見られる。

#### 4 自分から進んで勉強しようとする気持ち(意欲)がありますか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
たくさんある	79.4%	79.1%	79.3%
少しある	75.4%	71.1%	73.0%
あまりない	70.8%	67.3%	68.4%
ない	67.6%	64.2%	65.0%



「自分から進んで勉強しようとする気持ち」をもっている児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。

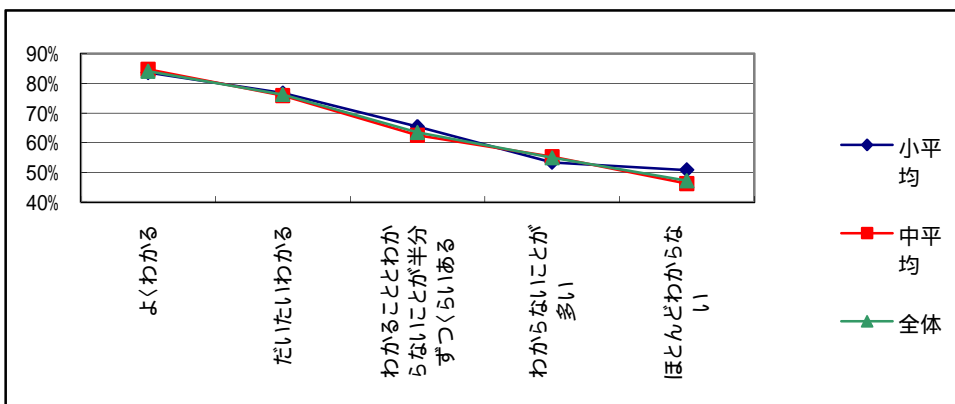
「自分から進んで勉強しようとする気持ち(意欲)」において、「たくさんある」を選んだ児童生徒の正答率は80%程度であるが、「ない」を選んだ児童生徒の正答率は65%程度である。これは、どの学年においても同様な傾向が見られる。中学校の方が「自分から進んで勉強しようとする気持ち(意欲)」と正答率との関係がより顕著に表れており、小学校では、「たくさんある」を選んだ児童と「ない」を選んだ児童の正答率の差は12%程度であるが、中学校では、これらの差が15%程度に広がっている。「自分から進んで勉強しようとする気持ち(意欲)」がある・ないと学力には、顕著な相関が見られる。

#### 自ら問題を解決していく「主体的な学習」の状況と学力との関係

#### 6 学校の授業がどの程度わかりますか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
よくわかる	83.7%	84.7%	84.1%
だいたいわかる	76.8%	75.9%	76.3%
わかることとわからないことが半分ずつくらいある	65.5%	62.6%	63.5%
わからないことが多い	53.5%	55.3%	55.0%
ほとんどわからない	50.9%	46.3%	47.3%



「学校の授業がわかる」児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。

「学校の授業がどの程度わかりますか」において、「よくわかる」を選んだ児童生徒の正答率は80%を上回っている。また、「だいたいわかる」を選んだ児童生徒の正答率は75%を上回っている。「わからないことが多い」「ほとんどわからない」を選んだ児童生徒の正答率は低くなっている。これは、どの学年においても同様な傾向が見られる。また、小学校第6学年と中学校では、「よくわかる」を選んだ児童生徒の正答率と、「ほとんどわからない」を選んだ児童生徒の正答率は30%以上の大きな差が見られる。「学校の授業がわかる」と学力には、顕著な相関が見られることから、今後もわかる授業の充実により努める必要がある。

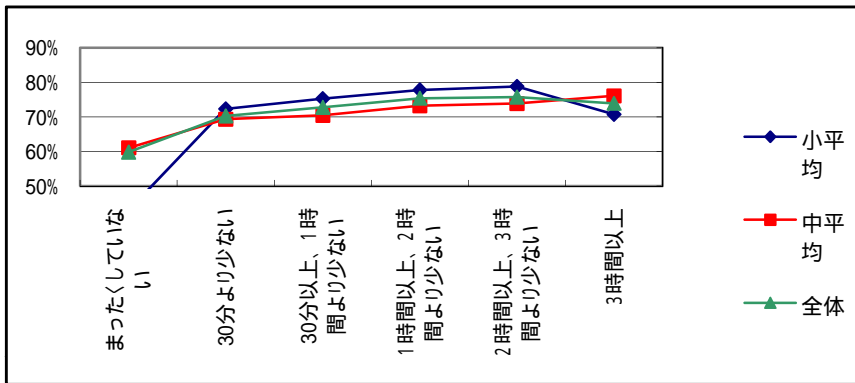
計画的に学んでいく「学習習慣」の状況と学力との関係

8 - ア 平日に家に帰ってからどのくらい勉強しますか。  
(学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間をふくまない場合)

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
3時間以上	70.8%	76.1%	73.9%
2時間以上、3時間より少ない	78.8%	73.9%	75.8%
1時間以上、2時間より少ない	77.8%	73.2%	75.4%
30分以上、1時間より少ない	75.3%	70.5%	72.8%
30分より少ない	72.3%	69.3%	70.3%
まったくしていない	43.0%	61.1%	59.8%

「平日に家庭で学習する時間が多い」児童生徒には、正答率が高い傾向が見られる。「平日に家庭で学習する時間」において、最も正答率が高いのは、小学校では、「2時間以上、3時間より少ない」を選んだ児童である。中学校では、「3時間以上」を選んだ生徒である。特に中学校では、家庭で学習する時間が長いほど正答率が高くなる傾向が見られる。小学校、中学校ともに、「まったくしていない」を選んだ児童生徒の平均の正答率は65%を下回っている。また、「3時間以上」を選んだ児童生徒の正答率と、「まったくしていない」を選んだ児童生徒の正答率は15%以上の大きな差が見られる。「平日に家庭で学習する時間」と学力には、相関が見られる。

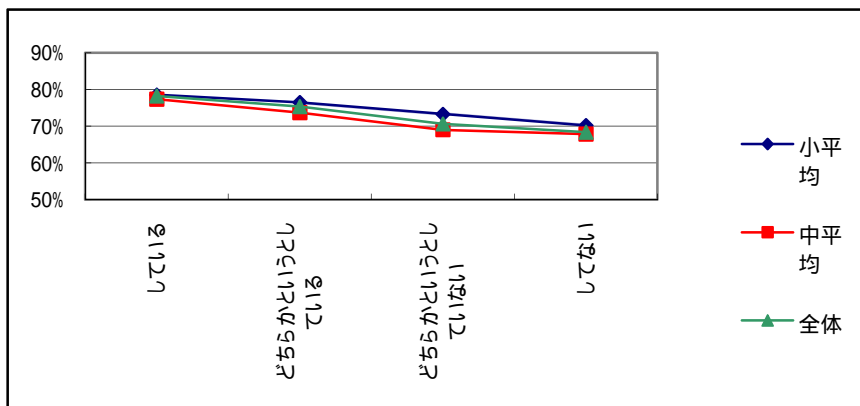


9 ふだんから、計画を立てて家庭での勉強をしていますか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
している	78.6%	77.4%	78.2%
どちらかというとしている	76.5%	73.7%	75.3%
どちらかというとしていない	73.3%	69.0%	70.6%
していない	70.2%	67.8%	68.4%

「計画を立てて家庭学習をしている」児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。「計画を立てて家庭学習をしているか」において、計画的にしている児童生徒ほど、正答率が高くなる傾向が見られる。また、どの学年も「していない」を選んだ児童生徒の正答率が最も低い。全体として、「計画的にしている」を選んだ児童生徒の正答率と、「していない」を選んだ児童生徒の正答率は10%程度の差が見られる。「計画的な家庭学習」と学力には、顕著な相関が見られる。

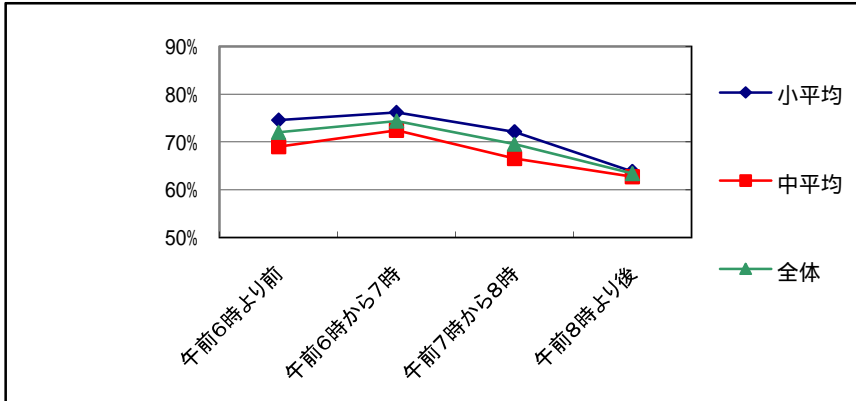


## 規律ある生活ができる「生活習慣」の状況と学力との関係

### 11 平日は何時に起きていますか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
午前6時より前	72.3%	68.9%	70.5%
午前6時から7時	76.8%	72.1%	74.4%
午前7時から8時	70.4%	64.7%	66.2%
午前8時より後	64.8%	56.9%	58.1%



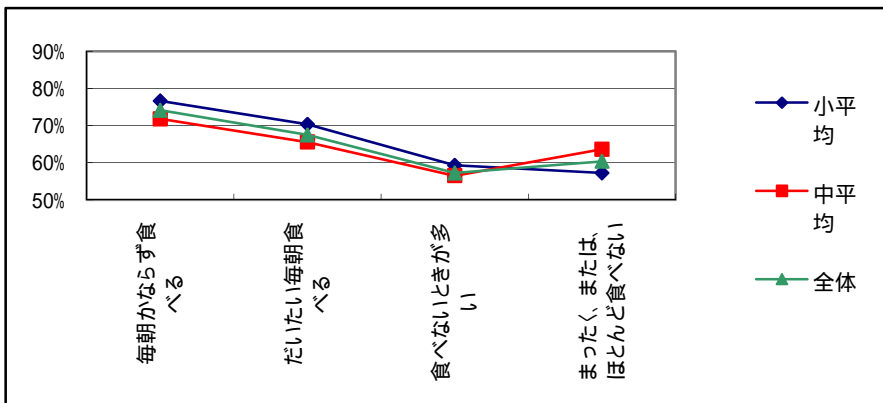
「早起きしている」児童生徒には、正答率が高い傾向が見られる。

「平日は何時に起きていますか」において、早起きしている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られる。小学校、中学校のどの学年においても、「午前8時以降に起きています」を選んだ児童生徒の正答率が最も低い。しかし、どの学年においても、「午前6時より前に起きています」を選んだ児童生徒が最も高い正答率とはならなかった。最も高い正答率と最も低い正答率を比べると、小学校では12%程度、中学校では15%程度の大きな差が見られる。「早起き」と学力には、相関が見られる。

### 14 毎朝、朝ごはんを食べていますか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
毎朝かならず食べる	76.6%	71.8%	71.4%
だいたい毎朝食べる	70.4%	65.6%	67.5%
食べないときが多い	59.3%	56.5%	57.3%
まったく、または、ほとんど食べない	57.2%	63.6%	60.4%



「毎朝、朝ごはんをかならず食べる」児童生徒には、正答率が高い傾向が見られる。

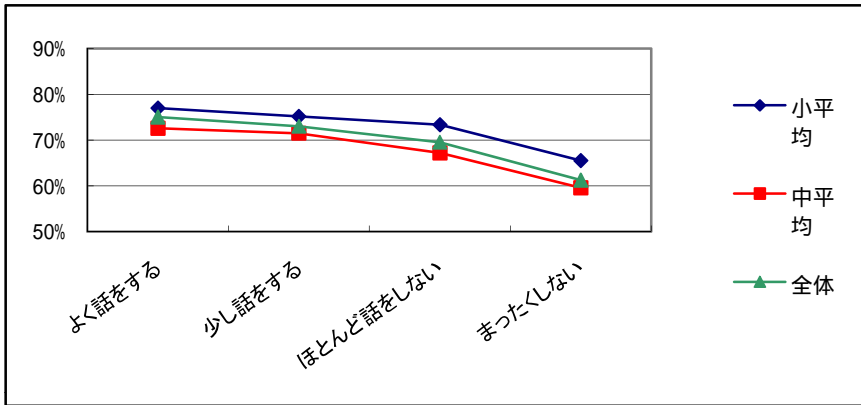
「朝食を毎朝食べているか」において、「毎朝かならず食べる」児童生徒ほど、正答率が高い。また、食べていない児童生徒は、正答率が低くなるという傾向が見られ、特に小学校では、この傾向は顕著である。平均の正答率が最も高い「毎朝かならず食べる」児童生徒と、平均の正答率が最も低い「まったく、または、ほとんど食べない」(小学校)、「食べないときが多い」(中学校)を比べると、小学校で19%程度、中学校で15%程度の大きな差が見られる。「朝食を毎朝かならず食べる」と学力には、相関が見られる。

自ら生活を律していく力を育てる「家庭環境」の状況と学力との関係

19 家の人と趣味や遊びのこと、進路や将来の仕事や生活、学校でのできごとや友だちのことなどについて、一緒に話をすることはありますか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
よく話をする	77.0%	72.6%	75.1%
少し話しをする	75.2%	71.5%	73.0%
ほとんど話をしない	73.3%	67.2%	69.5%
まったく話をしない	65.5%	59.5%	61.2%

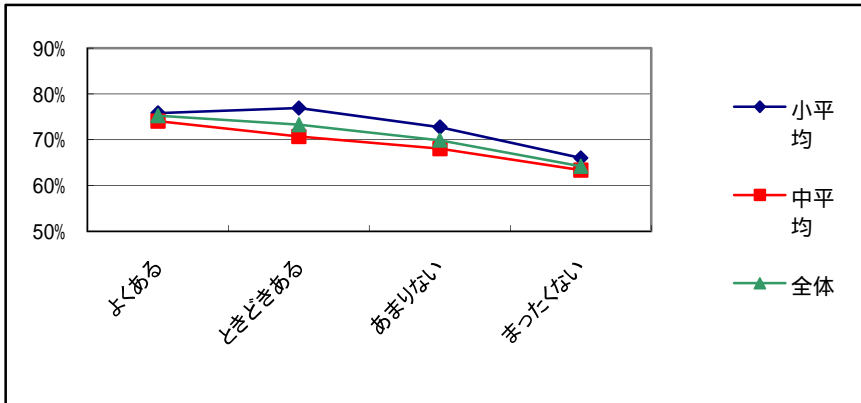


「家の人と話をする」児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。「家族とのコミュニケーションやふれあい」においては、「よく話をする」を選んだ児童生徒ほど、正答率が高く、「まったく話をしない」を選んだ児童生徒ほど、正答率が低い。これは、どの学年においても同様の傾向が見られる。「よく話をする」を選んだ児童生徒の正答率の平均と、「まったくしない」を選んだ児童生徒の正答率の平均を比べると、小学校、中学校ともに、10%程度の大きな差が見られる。「家族とのコミュニケーションやふれあい」と学力には、顕著な相関が見られる。

20 勉強やスポーツ、習い事などでがんばっているときに、家の人からほめられたり、はげまされたりすることがありますか。

各回答別正答率(小学校・中学校・全体の平均正答率)

	小平均	中平均	全体
よくある	75.8%	74.0%	75.2%
ときどきある	76.9%	70.7%	73.3%
あまりない	72.8%	68.0%	69.9%
まったくない	66.0%	63.3%	64.2%



「家の人からほめられたり、はげまされたりする」児童生徒には、正答率が高い傾向が見られる。「家族からの認め励まし」においては、「よくある」を選んだ児童生徒は、正答率が高く、「まったくない」を選んだ児童生徒ほど、正答率が低い傾向が見られ、これは、どの学年においても同様の傾向が見られる。「よくある」を選んだ児童生徒の正答率の平均と、「まったくない」を選んだ児童生徒の正答率の平均を比べると、小学校、中学校ともに、10%程度の大きな差が見られる。「家族からの認め励まし」と学力には、顕著な相関が見られる。